

快挙！第60回全国漆器展個人賞を2人が受賞

美術工芸品部門

農林水産大臣賞

「大理の夢」



秋平屋
たかはし ていいち
高橋 貞一さん

受賞者から
大理石をイメージして作った器で、さまざまな用途で使用できます。この塗りは、雅号「流泉」をいただいてから研究を重ね完成した独自の技法です。自分が好きで作ったものが評価され職人冥利に尽きます。

産業工芸品部門

公益財団法人日本デザイン振興会賞

「箸置梅5個組」



大関七郎漆器工芸
おおぜき いさお
大関 功さん

受賞者から
五つの花びらを組み合わせ梅の形になる箸置きです。小さな食材をのせたり、あしらいをのせたりと工夫次第で使い方も広がります。今回の受賞に満足せず、伝統ある漆器の新たなスタイルを創作したいです。

第30回 川連塗りフェア

10月17日から20日までの4日間、「第30回川連塗りフェア」が開催されました。

会場の稲川体育館では、16業者が一堂に会し、食器や家具、アクセサリなど、およそ3,000点の漆器製品を展示販売。フェア30周年を記念した目玉商品の販売や、こけし絵付けなどの体験コーナーもあり、来場者は伝統の技を凝らした彩り豊かな漆器製品の数々をじっくりと品定めして買い求めていました。



市内の全小中学校の学校給食に「川連漆器」食器を導入します

秋田県漆器工業協同組合に製作していただいていた、学校給食センターの自動洗浄システムに対応した汁椀が完成し、中学校では2学期から使用を開始しました。

汁椀を使った給食を食べた生徒からは「漆器だとより美味しそうに見える」「大切に使いたい」などといった感想が聞かれました。小学校と稲川支援学校では、令和8年度の今年2学期から使用を開始する予定です。

地域の伝統に根ざした食文化を通じて、児童生徒の食育の推進と、地域産業への理解や誇りを育み、郷土への愛着を醸成します。



伝統の技を後世に

秋田県漆器工業協同組合
さとう こう
理事長 佐藤 公さん



近年は、生活様式の多様化で漆器の需要が落ち込んでいる上、職人の高齢化や後継者不足が重なり、産地を取り巻く状況は厳しさを増しています。こうした状況下でも、職人は日々研鑽に努め、伝統が絶えないよう努力を続けており、この度この産地から2人の受賞者が出たことは大変名誉なことと感じています。

川連漆器伝統工芸館では心を込めて製作した製品の展示販売を行っています。ぜひ足を運んでいただき実際に手に取ってご覧ください。

長い歴史を誇る川連漆器を後世に伝えていくことができるよう産地一同今後とも尽力してまいります。

湯沢市川連漆器伝統工芸館



箸やお椀などの食器のほか、お盆や家具など、県内随一となる常時1,200点以上の品揃えを誇ります。毎月15日は「椀(1)こ(5)」の日として、館内の商品が2割引き(一部対象外商品あり)になります。

川連町字大館中野142番地1

☎42-2410

【営業時間】

午前9時～午後5時



ホームページ